

勝林寺報



「母の日」に

5月の十一日は、「母の日」がありました。正直いってわたしは、戦後にできた「なににの日」というものには、もひとつなじめないばかりか、反発さえ感じております。

が、今日の「母の日」ばかりは、ペソまがりなわたしにとっても、実はなくてはならない心の記念日です。というのはこの五月と言う月が、わたしの育ての母親の亡くなつた祥月だからです。、

実をいうと私は、生みの父親と母親を幼いときに亡くしました、それでは幼稚園のころに、子供のいないこの家にもらわれて来て育てられました。私がもらわされて来てからぐに、女の子が続けて一人うまれて、だから男一人妹二人の三人きょうだいとして育てられたのです。

子供のころには、よく近所の大人から「繼子はつらいだろうな」とか「継子いじめされてるのとちがうか」など聞かれることがありましたが、私に限って言えば、まったくそんなことないどころか、ことに母親は、ほかの女の子以上に私をいとおしんでくれました。私はそれをいいことに、気まま法外 腕白の仕放題。勉強等と云う段では落ちこぼれの劣等生で通しました。

そんな私を、母は徹底してかばい育み、なんでも許して育ててくれました。自分が腹を痛めて生んだ二人の女の子はほおつておいても、私一人を、命懸けでかばつてくれたようになります。その御蔭でまがりなりにも大学を卒業し、今こうして教職につくことができたのです。

その母が、六年前のこの月に、突然亡くなつて仕舞いました。

その母の日に、私の村のお寺で永代経が勤まって、日頃からお世話になつてることもあり、久々にお参りして「法話を聞かせていただきました。

その御法話のなかで、浄土宗と浄土真宗との違い、法然さまと親鸞様と違いを「悪人も救うぞ」と「悪人を救いたい」との違いだと教えて下さいました。

女の子ふたりはもちろんだが継子で出来の悪いお前も平等にかわいがつてやるよというのが法然様

出来の悪いお前をこそ一人前に育て上げないならおかあちゃんとは呼ばれません」それが親鸞様の教えて下さった本当の如来様。

このご法話聞いて、私、亡くなつた育ての母のこととおもいあわされ、ああ、本当本當と、涙がボロボロ落ちて、思わず知らず「南無阿弥陀仏」とお念佛が出て仕舞いました。

今年の「母の日」は、またとない感激の日であります。

わたしに生まれたことを喜こぼう
この人と出会えたことを喜こぼう
この仕事ができることを喜こぼう

この先生が卒業の時、私に書いてくださった色紙を、わたしは今も大事に掲げております。

最後の所にご自分の名前を署名してください

70過ぎた今日の日までの私の人生は、正直いってこの言葉とはまるきり反対のものであります。
なんでこんな自分に生まれて来たんだろう。
こいつと出会ったのが運の尽き。こんな仕事どうなつてもいいわ。
しかしそういうやぶれかぶれに陥つたたびに、この先生の言葉が私を叱つて私を引きもどしてくれました。

70越えた今になつてはじめて、一日一日、先生の教えを、そのとおりその通りと、うきうきしながらくらせるようになりました。

先日、親鸞様の誕生日を祝う降誕会の案内をお寺からいただきました。
親鸞さまも「遠く宿縁を慶ぶ」人生を送られたとか、
私にうまれて よかつたネー よき教えにであえて

葬儀 暮坂
五月二十四日



人生のよろこび

六月のこよみ

わたしは昔の旧制中学校を卒業しました。

この村からは私一人。おやじが軽蔑する村の者たちを見返してやるというそんな意地みたばと、まあそんなことで遠いA市の学校まで四年間、自転車で、無遅刻無欠席で通いとおしたものでした。

当時、海軍の水兵上がりであったO先生に3年間担任をしていただいて、とっても可愛がつていただきました。中学をまぎりなりにも卒業できたのも、それからの並でない世間を無事渡つてこれたのも、担任のO先生の励ましの賜物と、その御恩を今でも思つております。

この先生が卒業の時、私に書いてくださった色紙を、わたしは今も大事に掲げております。

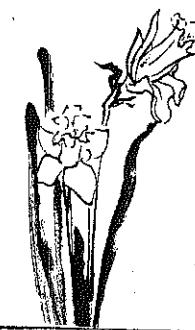
この先生が卒業の時、私に書いてくださった色紙を、わたしは今も大事に掲げております。

一日 クリーン作戦
西宗寺永代経
鹿児島へ出発
西宗寺永代経
全国布教同志会総会（鹿児島別院）
住職課程研修会（京都本山）
町ぐるみ検診
出石組仏社役員会
藤田忠夫氏宅法事
出石組仏婦婦会（福成寺）

三日 同じ
四日 竜谷大学同窓会
五日 金久志津志子様法事
本覚寺永代経
中嶋富美夫氏宅法事
六日 西方寺永代経
西方寺永代経
七日 福成寺永代経
十九日 善立寺永代経
二十一日 納骨参拝研修旅行
北摂組御同朋結集大会
二十六日 みのりを聞く会
二十七日 高福寺永代経
二十八日 高福寺永代経
二十九日 真覚寺永代経
長專寺永代経
教区仏壯岡山大会
良かつたよ、

如來さまの およびごえ南無阿弥陀仏の
なかの一日一日 うれしいよ。

五月の二十一日は降誕会。心新たにお参りさしていただこうと考えております。



法事の「」法事

今日は七回忌の法事をお勤めしたこのお家の先代喜市様の法名は「糸喜勵」とあります。生前のお名前喜市の喜に添えて「勵む」という字をつけ、「喜勵」とつけさせていただきました。

それは特に晩年、老いを喜び、喜びの中で励まれたかたであったと仰がせていただいたからです。

老いをどう生きるか、ということを、私、このかたから教えていただきました。

老いたならば励まなければならぬといふこと。

老いにうすくまつてしまつては老いぼれてしまうばかりです。老いたならば老いを励まなければなりません。はげむなかでこそ、今まで見えなかつた大事なこと貴いこと素晴らしいことが見えてくるのです。

亡くなつたこの方は、老齢になつてから、たとえば遠い遠いT市の老人大学に通つて勉強を始めました。この歳になつていまさらと人は思うだらうがとはにかみながら通つておられました。

そのところからです、新しいお仏壇をお迎えになりお正信偈の練習にかかり、過去帳を書いてほしいとご依頼になりました。

「老いたおかげではじめていろんなものに気づかせていただきました」とおっしゃつておりました。

この方は一生、炭焼きなどの山仕事に過ぎたことがあります。

杉の木などは植えて育てれば錢かねにはな育てる木ではない。豊かない山にするには、目には見えないところで根をいっぱいにはつた雑木を大事にしなければならない。山で一生働かせてもらつてそんなことがわかりました。

老いに寝転がつてはダメ。老いを励もう。励んでいきるなかで今まで見えなかつた。



た本当のもの、眞実私を生かして下さつているもののもつたいなさに生き返ることができるのだよと、いまも私に教えてくださつています。

納骨参拝研修旅行 追加募集

6月21日 → 22日

まだ少し余裕があります。

ご遺族・おん同朋、ともどもに

お参りいたしましょう

急ぎお申し込みください。

おおげせーな 一一とでした

童話作家

中川真昭

仔犬が現れたのは、一〇日前。ふら

ふらとしながら、かりがりにやせほそつて。このままだと、ほんとに今日中

にも、いのち終えてしまいそうに見えたのです。山門の前で、動けなくなつて横たわつた仔犬に、私はこつそりと

温めた牛乳と、ごはんを与えたのでし

た。そして、ダンボール箱を探してく

ると、その中に古いバスタオルを敷いて、仔犬を入れ、それを物置きの裏に

こつそりと隠したのです。

五日たち、六日たち、すっかり元気になつて、少しこえてきた仔犬を見て

「えらいことに、なつてしまつた」と私はつぶやきました。

現在、家には一二歳になる雑種の犬がすでにいます。

「二匹も飼わせてもらわへんやろな。散歩をさせるのも、この老体には大変やし。そやけど、もうこいつは、こ

こが自分の家みたいに思うとるしなあ

坊守は、うつむいてぼそぼそといつ

私に、しゃんとしなはれ、というよう

に仔犬を抱きあげるといいました。

「わたしが今から、お母ちゃんやから、一緒に住めたらなあと」

坊守は、うつむいてぼそぼそといつ

私に、しゃんとしなはれ、というよう

に仔犬を抱きあげるといいました。

分になるかわいそうな犬達は、今全国で一年間に、四〇万匹もいるといわれるとんや。ま、その中の一匹になるだけや、と言えばそれまでやけど、それにしてもな……」

ぼそぼそと、しゃべり続ける私を、仔犬はじつと見つめています。仔犬は、おしゃべりより今、ごはんがほしいのです。

「キヤン」

と鳴いで、さいそくです。

「で、どうしやはるんですか……」

と坊守も、私を見つめます。

「一つの、大切なのちを助ける、そ

んなおおげさなことやなしに、なんや

しらんけど、ここへ来てくれたんやか

ら、一緒に住めたらなあと」

坊守は、うつむいてぼそぼそといつ

私に、しゃんとしなはれ、というよう

に仔犬を抱きあげるといいました。

「わたしが今から、お母ちゃんやから、一緒に住めたらなあと」

坊守は、うつむいてぼそぼそといつ

私に、しゃんとしなはれ、というよう

に仔犬を抱きあげるといいました。

「ひいつ、わるさーいつもせえへんねん。どや、このあどけない目……。このま

ま捨ててしまつたら、きっとまた野良にもどつて、食べるもんのがうて死んでしまうが、捕まえられて、殺処分、いや安楽死処分になるやろ。安楽死処

おじいちゃん、ありがとうございます。二いぬのなまえは、しろがいいですよ。しろの、いのちのおどつて、どんなですか。ききたいです。ゆうがより。

今、私は毎日、二匹の犬を引きつれて、いや引きずられて散歩をしていまして。元気なしろと、ちょっと年をとったイチコと一緒に。